２０２１年１２月２６日（日）
＜歳晩礼拝＞
題　『起きて出発する』
テキスト：マタイによる福音書２：１３～１５節

今年も神さまに守られ、導きの中、アドベントの日々を過ごし、クリスマス礼拝・祝会またクリスマスイヴの礼拝を与えられ、主イエスの誕生を共にお祝いできましたことを嬉しく思います。教会歴ではクリスマスの期間は、１２月２５日から新年の１月６日までです。この日は、昔から、当方の博士たちが嬰児イエスを拝みに来た日とされています。音楽家バッハがクリスマスのために作曲したクリスマスオラトリオは６部からなっているのですが、１２月２５日のクリスマスから１月６日まで、６回に亘って聴かれるために作られました。

今年最後の礼拝も、新しい年も主の光に包まれた私たちにとりましてはクリスマスの光に包まれて迎えることとなります。

今日は歳晩礼拝で、２０２１年最後の主日礼拝です。今年も、日本も世界も新型コロナウィルスに翻弄された一年でした。

皆さまどのような年だったでしょうか。うれしかったこと、悲しかったこと、辛かったこと、様々おありだったことだと思います。すべて生ける主に導かれたことを信じるがゆえに感謝するとともに、お一人お一人の上に感謝神さまの祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。２０２２年の歩みが祝され、私たちの信仰が養われますように願います。

福音が地域に広がり、あつい祈りが捧げられ、日本と世界に主の平和が実現することを祈っていきたいと願っています。

さて、今日の聖書の箇所は、生まれたばかりのイエスを訪問した東方の学者たちが自分たちの国に帰ったあと、イエスとマリア、ヨセフの家族がヘロデ王の手から逃れるためにエジプトに避難する場面です。　「13:占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。『起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。』」

聖書では夢は、神がご自分の意思や計画を手段として用いられている場合があります。夢にはいろいろな理解がありますが、自分を離れた場所でもあるとの理解もあるようです。時に神さまの声を聞く時として用いられるのでしょうか。

今日の短い聖書の個所に、
「起きて」とか「「連れて」そして「エジプトに逃げ」と何度かあります。神さまからマリアとヨセフ、そしてみどり子イエスに新しい出発の時が与えられているようです。そして私たちにもそのようの時が人生にはあるように思えるのです。

ここでは、「エジプトに逃げる」ようにと夢で天使はヨセフに勧めています。これはマイナスのように見えますが、実は神さまの与えられた時であり、主の助けが家族の上に実現する道でもあったのです。
　昔からエジプトは、イスラエルの人々にとって避難場所でもありました。信仰の父と呼ばれるアブラハムも飢饉の時、エジプトに一時避難したことがあります。それだけエジプトは土地も広く懐も深かったのかもしれません。私ごとですが、昔、機会を得てエジプトを訪問したとき、このマリアとヨセフ、そして嬰児（みどりご）イエスが避難して住んでいたといわれる場所、洞窟のようなところに、コプト教会といわれる古い教会が建てられていました。
　イエスと母マリアとヨセフは、数々の試練にあい、苦しみを経験した家族です。その中でも嬰児（みどりご）イエスは守られたのです。母と父の愛にかばわれていたし、何より神の愛の計画の中で支えられていたのです。やがて時が来て、ガリラヤ地方のナザレに住むことになります。神に助けられ、導かれた家族です。究極的には、この世の、誰も神の意思と計画を阻止することはできないのです。主の言葉と計画は、主の助けによって実現するのです。

　ヨセフは天使の声に素直に従いました。「14:ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、 15:ヘロデが死ぬまでそこにいた。」「起きて」ということばが印象的です。１４節にも出てきます。この「起きて」という言葉は、イエスが「復活する」という言葉と語源が同じとの説もります。つまり、新しい事が起こり、イエスのよみがえりの命の方向へと道は進んでいくのだということを予感させるのです。ともかく、今いる場所から立ち上がって、前に向かって生きて行くのです。現実には、夜のうちに逃げるということなのです。ある面から見れば、夜逃げのようかもしれません。一度も行ったことのない地で住むのです。ここにも様々な試練や出会いがあります。しかし、神は必ず守ってくださるのです。
　初代教会の最初の殉教者であるステパノの説教が使徒言行録７章にあり

ます。その中に私が試練の中で心打たれたみことばがあるのですが、ヤコブの息子たちは、父にかわいがられるヨセフをねたんでヨセフをエジプトに売ってしまうのです。９節、１０節「神はヨセフを離れず、あらゆる苦難から助け出して」とのことばと出会ったのです。そして立ち上がって、少しずつ歩み出すことができたのです。　神は、心に留められた者を、理屈抜きで必ず最善に導いてくださる方なのです。ですから私たちは、何があっても、どこに行っても、神にすがって、まことのひつじ飼いである主イエスの御手にすがって生きて行きたいのです。生きて行けば良いのです。

イエスとマリアとヨセフ家族は、今はエジプトへと引き下がる方向でありますが、実はこの道はいのちの道への方向なのです。この３人のエジプト滞在は、永遠ではなく、期限つきです。残虐なヘロデ王が死ぬまでです。時は移って行きます。人間の目には変わらないように見えても、この世の勢力関係は変わっていくのです。主にあっては希望は捨てる必要はなく、また捨ててはならないのです。

エジプトから３人は呼び出される日が来るのです。来たのです。

それは、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。これは旧約の預言者ホセアの預言に一部です。（ホセ１１章１節　Ｐ1416　）

３人は、時至って、再び神に呼び出されます。

私たちも、時に「どうして、このようなことが　起るのか」ととまどったり、嘆いたりすることがあります。今年もありましたし、来年もあるかもしれません。しかし、長い目で見るとき、神のまなざしで見るとき、そこに神さまの導き、救いの計画があるのです。イエスは独り子として、私たち人間の受ける苦しみを共に、更に深く十字架に至るまで苦しんでくださったのです。わたしたち人間の罪と死を担ってくださったのです。

そして復活の命を獲得してくだいました。わたしたちにはこの命の希望があるのです。この一年を感謝し、来る年も、力強き神の憐みにすがり、導きに委ねてきて歩みたいと願います。

◆エジプトに避難する

13:占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて
言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わ
たしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子
を探し出して殺そうとしている。」

14:ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、

15:ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトから
わたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたこ
とが実現するためであった。